

経営比較分析表（平成29年度決算）

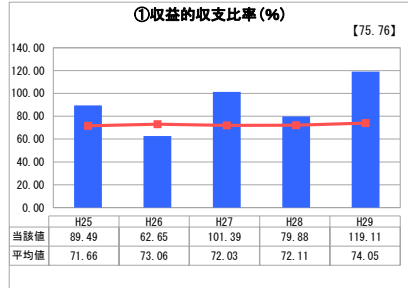
宮城県 川南町

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|--------|
| 法非適用 | 水道事業 | 簡易水道事業 | D4 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) | |
| - | 該当数値なし | 1.06 | 3,758 | |

| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| 15,929 | 90.12 | 176.75 |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km ²) | 給水人口密度(人/km ²) |
| 168 | 2.25 | 74.67 |

| グラフ凡例 |
|----------------|
| ■ 当該団体値(当該値) |
| — 類似団体平均値(平均値) |
| 【】 平成29年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



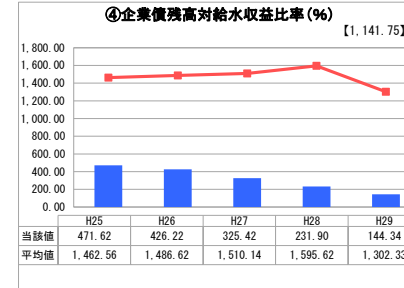
「単年度の収支」



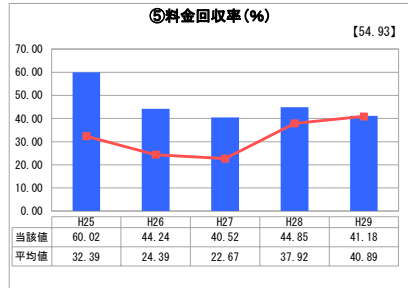
「累積欠損」



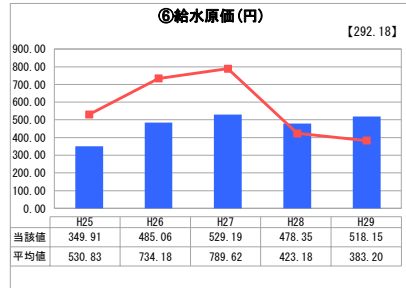
「支払能力」



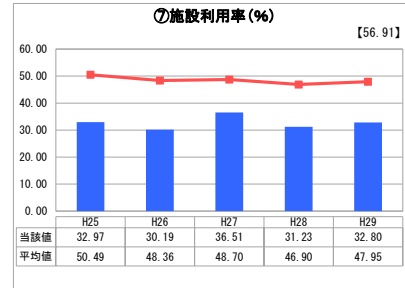
「債務残高」



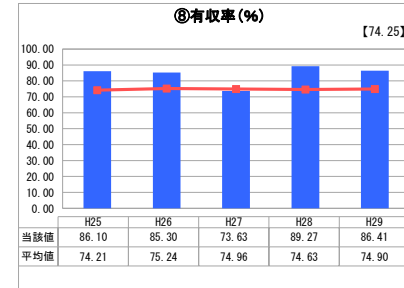
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

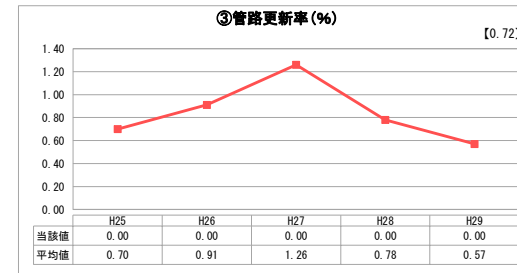
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
平成29年度は他会計繰入金が多かったため、100%を超えています。県内では高い料金設定となつていますが、給水人口の減少により安定した給水収入が見込めないため、他会計繰入に依存している状況です。

④企業債残高対給水収益比率
平均値より低い状態になっています。建設改良費の財源を企業債に頼らずに行っているため、減少傾向になっています。

⑤料金回収率
平均値をわずかに上回っていますが、100%を大きく下回っています。他会計繰入に依存している状況があることから、費用効率の検討も必要になっています。

⑥給水原価
平均値よりもやや高い状況にあります。上水道事業と同率の使用料設定で今後の老朽化に備え、健全経営に努めています。給水人口が減少傾向にあることから、上水道事業との統合を進め、効率性を高めていく必要があります。

⑦施設利用率
給水人口が減少傾向のため、平均値を下回っています。効率性を配慮した施設規模の見直しが必要です。

⑧有収率
平均値を上回っています。今後もより高い有収率を保つ必要があります。

2. 老朽化の状況について

③管路更新率
近年は、管路更新の実施はありません。ポンプ等機械設備とともに計画的な更新が必要となっており、料金回収率が低く更新費用の財源確保が困難な状況となっています。費用及び施設の効率性の検討が今後の課題です。

平成7年度の供用開始から20年以上が経過し、耐用年数を超えた管路はありませんが、計装機器等に老朽化が見られます。しかし、小規模であるため、料金値上げによる更新工事費の確保は、困難な状況です。

全体総括

給水人口が減少傾向であるため、料金回収率の低さや施設利用率の低さに影響しています。今後、施設や管路の更新等を考慮すると、料金改定や規模縮小の検討が必要と考えられます。しかし、今以上の規模縮小や、料金値上げは困難な状況のため、平成32年度に掛道簡易水道事業及び赤石飲料水供給施設について、上水道事業との統合を予定しています。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。